カトリック山手教会月報

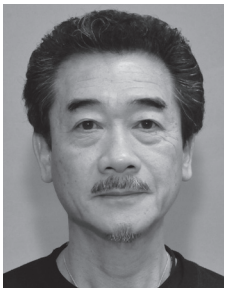
やまて

編集・発行　カトリック山手教会 広報委員会　〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎（045）641－0735　http://catholicyamate.org/

第６１１号　２０２１年1月17日

「神による結びつき」を信じて

主任司祭　ミカエル鈴木 真



皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は、コロナ禍に見舞われる中、たくさんの方々の働きと尽力に支えられた年でありました。また多くの方々に自重と忍耐をお願いすることとなり、心苦しい限りではありましたが、皆様のご理解とご協力のもと、何とか小教区の活動を続けることができました。心より御礼申し上げますとともに、まだまだ予断をゆるさない状況の中、本年も引き続き、ご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

コロナ禍になって気づかされたことも少なくありませんでした。また新たな人との「つながり」が与えられたのも事実です。教会にとって「集まれない」「触れられない」ことは本来的に大きな壁ではありますが、それでも様々な方法によって、わたしたちには神さまから「つながり」が与えられることを信じています。その神さまのわざに共に気付けるよう祈りつつ、先の見通せない年のはじまりではありますが、本年も共に歩んでいきたいと願っています。

新年のご挨拶

助任司祭　ダリル・ディニョ

元旦は、神の母マリアの神々しさをあらわす日です。初期のクリスチャンは、マリア様を「Theotokos」と呼んでいました。確かに彼女の胎内から神の子が生まれました。

神の母マリアを通して学ぶことは３つあります。

第１は、神に対するマリア様の忠実さです。ときに物事が彼女にとって理解するのがむずかしい場合でも、彼女は神に忠実であり続けました。

第２にマリア様の神への取り次ぎです。マリア様が愛情を込めてイエス様を世話しているように、彼女の最愛の子どもたちとして私たちの世話をしてくれるのです。

第３は、神の言葉に対するマリア様の従順さです。マリア様の「はい」は、彼女の従順さをあらわしています。マリア様にとって「はい」は、明らかに神の意志に対する「はい」なのです。

神様は、祝福された母マリアに赤ん坊のイエスキリストをゆだねました。新年にあたって、私たち自身と私たちの前途を愛する母マリアの御手にゆだねましょう。

皆さん、あけましておめでとうございます。
今年もどうぞよろしくお願いいたします。

※日本語で寄稿いただきました。（編集部）

新年のご挨拶

皆様、新年あけましておめでとうございます。

2019年１月から２年間教会委員長を務め､年末で卒業と考えていましたが､２期目としてもう１年続けることになりました｡皆様､どうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、世界中が新型コロナウイルス感染症拡大の困難に陥るという大変な１年でした。人類にとって大きな試練です。初めの頃は遠い海外での話のように思っていましたが、１月に日本でも感染者が出て、本当にコロナ禍に右往左往した2020年だったと思います。「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」の中にありますように、「病に苦しむ人に必要な医療が施され、感染の終息に向けて取り組むすべての人、医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように」と心から祈らずにはいられません。

山手教会でも３月に年齢制限をしてミサの参加人数を減らし対処しましたが、４月の聖週間に入る前に緊急事態宣言が発出され、信徒の参加無しのミサとなりました。ミサの動画配信という今まで無かった試みも同時に始まり、今も一人の信徒の方が続けてくださっています。山手教会聖堂は昨年秋からの第1期修繕工事が５月に終わり、６月20日のミサから人数制限がありながらも聖堂でミサが行われるようになり感慨深いものでした。

８月15日の聖母被昇天の日には４月から延期されていた入信式と堅信式が行われ、11月21日には子どもたちの洗礼と初聖体の日を迎えることができました。このような状況の中で育っていく子どもたちを、皆で守っていくことができますように。復活徹夜祭にも信徒は参加できず、クリスマスと年始のミサも人数制限があり、希望されても参加できなかった方がたくさんいらっしゃいました。人が集うことができない寂しさをいやというほど味わった昨年でした。

皆様と共に感謝と賛美のうちにミサに参加できる日を心から待ち望み、この困難を乗り越えることができますように。

（教会委員会　委員長　太田康子）

ヨゼフ会会長挨拶

“困難な時こそ開かれた教会に”

2021年もヨゼフ会会長を続けさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の挨拶は聖堂の天井崩落の話題でしたが、今回は新型コロナの話題に尽きるでしょう。ヨゼフ会は2020年1月の新年会総会以降、例会をはじめ多人数で集まる活動は見合わせ中ですが、コロナ禍においてもメンバー有志による教会への関わりは積極的に継続しています。詳細は「ヨゼフ会便り」の38号にも記してありますのでご覧いただければ幸いです。６月後半からは聖堂でのミサが再開し、メンバー有志も主日ミサ３回それぞれの時間ごとのグループに分かれ、参加者リストの確認、検温、アルコール消毒など感染予防対策、信徒や見学の方への各種ご案内などのお手伝いをさせていただいています。これは毎週のことなので、教会との関係やメンバー同士の連携も以前よりかえって強くなっているように感じます。また、ヨゼフ会の活動は近年、裏方としての教会への奉仕という方向に大きくシフトしていますので、目的にかなった活動でもあり、コロナ禍の中ではありますがうれしく思っています。

ミサは再開されていますが、三密を避けるため聖堂内の人数制限や事前登録制など山手信徒でも自由にミサに参加できない状況が続いています。他教会からの訪問や見学の方には本当にご不便をおかけしています。今は感染防止策の一環で窓も正面扉ともにミサ中も開放していますので、ある意味「開かれた教会」の状態になっています。もちろん本来の意味であるはずもなく怒られてしまいそうですが、案内係の時はミサの参加者以外の方にもできる限り丁寧な対応を心掛けています。特に、初めて教

会に来られた方にとっては最初の印象が大切ですので、案内係の責任は大きいと考えます。コロナ禍の中、自分たちのことだけで精一杯とは言わず、こういう時こそ本当の意味での「開かれた教会」でありたいと願います。そのためにヨゼフ会としても協力していきたいと思います。

《ヨゼフ会2021年度役員紹介》

会長：岡崎芳浩
副会長：久保田智洋　時久毅
会計：柳川晋一
幹事：有賀英樹　石澤正雄　稲見友一　川田耕嗣　佐藤康夫　澁谷信男　末澤二朗　田中広一　坪井暢　古谷信彦　宮裕一　※幹事名は五十音順
監事：佐々木和男　青木淳

（ヨゼフ会　会長　岡崎芳浩）

ロザリオ会会長挨拶

コロナ禍の中、ロザリオ会もほとんど活動ができないまま新しい年を迎えることとなりました。こうした中で、現在の役員のうち４人は2022年度への橋渡しとして、もう１年引き受けようということになりました。新しい役員は３人、ご自分から名乗り出てくださった方もいて心強い限りです。しかし、感染拡大は留まるところを知らず、さらに新たな変異種のウイルスも確認されて、希望を見出すことが困難な状況です。それでも足元を照らしてくれる小さな光をみつけて、みんなでどうにか切り抜けていきたいと願っています。

2021年度のロザリオ会役員は以下のとおりです。

会　長：山本紀志子
副会長：松本尚子
書　記：桑原優子　櫻井智美　松崎恵津子
会　計：古谷浩子　藤原泰子
（役職については変更もありえます）

何ができるか全くわかりませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

（ロザリオ会　会長　山本紀志子）

「主の降誕」夜半のミサ

例年、12月24日に横浜雙葉学園講堂で行われている「主の降誕」夜半のミサは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、規模を縮小して午後７時から山手教会聖堂で開催されました。

ラファエル梅村昌弘司教の説教は次のとおりです。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大に明け暮れた１年となってしまいました。今年の漢字は「密」だそうですが、清水寺の林貫主が境内で見事な筆さばきを披露し「密」の漢字一文字を書いておられる姿が報じられていました。密閉、密集、密接の三つの密を避けるように呼びかけられ、三密を避けるための工夫がさまざまなされる中、一方で人とのつながりの大切さが再認識されるようにもなりました。

< social distance >という聞きなれない英語も今ではすっかり我々の日常語として定着しています。先日、司教館で作業していた青少年委員会のメンバー数人が玄関先のプレゼピオ（馬小屋）を見て< social distance >が足りないと冗談で言っていました。バチカンでは聖ペトロ大聖堂前の広場に大きなクリスマスツリーが設置されると同時にプレゼピオと呼ばれる厩（うまや）が毎年意匠を変えて作られます。今年は厩の三方の壁がなく屋根だけがしつらえられていて「吹きっさらし」の感じでした。近代的なマリアさまのご像もヨゼフさまのご像も互いの距離がしっかりと取られていました。でも何となくすっきりしません。アシジの聖フランシスコがグッビオに等身大のプレゼピオを作ったのが始まりと言われています。牛やロバが置かれるようになったのはイザヤ書の冒頭にある「牛は飼い主を知り、ロバは主人の飼い葉桶を知っている。しかし、イスラエルは知らず、わたしの民は見分けない」という戒めの言葉に由来しているといわれていますが、実際、牛やロバのぬくもりが伝わって来ます。あたたかい息づかいまで聞こえて来そうな感じです。< social distance >が互いの大切ないのちを守るためだとは納得しつつも、なお、それでも「本当はそうじゃないんだよね」という思いが、おのずと湧いて来ます。

私自身の司教のモットーである< communio communionum >も今お話ししたプレゼピオのように< social distance >や「三密」を避けることとは相いれない標語かも知れません。三位一体の神に由来する「交わり」「一致」であり、教会の本質や司教職の本質を表わしている言葉ですが、物理的な距離をもっての「交わり」「一致」とは本質的に異なります。身体性の大切さを否定するつもりはありませんが、わたしたちの身体性を超えた「交わり」であり「一致」です。

アニメの一休さんの話ですが、私が実家に立ち寄った時に母は一人でテレビをつけて何気なく見ていました。幼くして寺に預けられていた一休さんが念願かなって母親に再会できるようになったお話でした。母親が諭すように幼い一休さんに言って聞かせます。「あなたのことを思わぬ日はありません。遠く離れていても心はいつもあなたと一緒です」その時「わたしもそうだよ」と私の母が小声でつぶやきました。母は昨年の５月に帰天しましたが、ふと、そのことを思い出しました。日本語の「思いやり」という言葉ですが、「思い遣る」「人を思い遣る」から来ていることを考えると、改めてすばらしい日本語だと思います。神さまご自身も「人を思い遣る」方だからこそ御ひとり子を救い主として、わたしたちのもとに遣わしてくださった。それがクリスマスです。ルカ福音書の中で言われている「救い主のしるし」はこうです。「あなたがたは『布にくるまった飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子』を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」そして、その救い主は「インマヌエル」と呼ばれるとマタイ福音書の中で言われています。インマヌエル「神は我々と共におられる」。救い主キリストは貧しい厩でお生まれになった。幼い無力な乳飲み子としてお生まれになった。だからこそ、特に「貧しい」人々と共にいてくださるのだということが分かります。救い主キリストの「貧しさ」の中での誕生は、聖書の中で言われる、いわゆる「貧しい人」にとっての救い主でもあるからです。

現代の社会の中にあって、わたしたち自身が救い主キリストに代わって「インマヌエル」と呼ばれる存在になることができたらすばらしいことです。

今宵は、特に、いのちを守る現場にいる人々に思いを馳せることができればと思います。お医者さんや看護師の方々をはじめとする医療従事者の皆さんは、自ら感染リスクをかかえながら働いています。自らのことだけではありません。子どもや家族のことも心配しながらの働きです。しかし、一方で医療関係者に対する差別や偏見は依然として続いています。説教の最後に「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」をささげます。

（編集部　土方芳人）

ボーイスカウトのクリスマス

山手教会の皆様、いつもボーイスカウトにご協力ご理解をいただき誠にありがとうございます。このコロナ禍の中、外出を控え毎週のミサにも与れないいらだちを抱えていることと存じます。ボーイスカウトも同じで、例年ならば聖堂でクリスマスの祈りをささげ、教会ホールで聖劇やスタンツ（短い劇）や歌を歌っていたことでしょう。今年はそのようなことができず、根岸森林公園でクリスマスゲーム大会を行ないました。新しく入団する子どもとその兄弟姉妹、お友達が参加して大勢の集会になりました。幸い天気に恵まれ、12月だというのに半袖でも寒くないような陽気でした。参加者を二組に分け、初めは背中に文字を書いての伝言ゲーム、次に地面に貼られた手形足形のとおりに移動してサンタのプレゼントを獲得するゲーム、さらにジャンケンをして勝ち抜かないと勝利にならないゲーム、勝者はクリスマスにちなんだ名前を言わないと本当の勝利者になれないなど、みんな夢中になって芝生の上を駆けずり回っていました。やはり子どもたちは自然の中で仲間と一緒にゲームをすることが一番好きですし、その中からたくさんのことを学んでいきます。最後はサンタさんからのクリスマスプレゼントをもらって解散となりました。

今年より幼稚園年長さんから小学校４年生までの女子も受け入れることとなりましたので、一緒に活動したい方はボーイスカウトの関までご連絡ください。

一日も早くこのコロナ禍が終息し、元の教会活動に戻れることを心からお祈り申し上げます。

（ボーイスカウト横浜第34団
団委員長　関利定）

ガールスカウトのクリスマス

コロナが収束しないままクリスマスを迎えました。バザーもなく、スカウトはミサに参加することができずに迎えたクリスマス。例年楽しみにしている東京のガールスカウトとのクリスマス会も中止になり、山手の外交官の家の各国のクリスマスの飾りも、いつもと違って静かなクリスマスとなりました。

12月に入ってからの毎日曜日の集会で、「お祈りカード」「リース作り」「リースに飾るチャーム」「クリスマスカード作り」と毎週一つずつ作りました。スカウトらしい活動ができなかった2020年。2021年

はコロナに負けず、新しい生活様式を取り入れた活動ができることを願い、手話で「主の祈り」を唱えました。覚えたてでギコチないのですが‥‥。

（ガールスカウト神奈川85団　梅田啓子）

チャリティーコンサート

11月28日(土)・29日(日)、どちらも14時から久しぶりにパイプオルガンのチャリティーコンサートが行われました。コロナ感染防止のために現在のミサ同様、参加人数を制限しての開催です。

演奏者は、目黒教会、山手教会のオルガニスト、米沢陽子さん。立教と純心の忙しい授業をこなしながら、そして最近、修理から戻った小さなオルガンも、どちらも頑張っています。まずイタリアのガブリエリの作品で始まりました。そして15世紀イタリアのカヴァッツォ―ニ、19世紀フランスのボエルマンと、マリア様への祈りの曲が続きます。ふとキリスト像の上、聖堂の穹窿（きゅうりゅう）に目を向けると、今は天の国の住人となった懐かしい人たちの姿が見えるようでした。古代ギリシャの人々は、人間は渡し守カロンの舟に乗って忘却の川を越えて行くと二度とこちらの岸には戻れないけれど、ただ、詩人だけは自由にその川を往来できると考えていました。詩人は己の内に世界を創造する人です。音楽家も芸術家もすべて詩人と等しいものでしょう。このオルガンの響きは、私たちと死者たちとの交感を生み出しました。パッヘルベルの懐かしいコラール、ブラームス、バッハ、演奏が終わって「ヨーロッパの国を旅したみたい！」とうれしそうに話している方もいました。音もまた高く飛翔（ひしょう）して天へと届く祈りとなったことでしょう。短いけれど静謐（せいひつ）な時を共有したひと時となりました。

（撮影：編集部　木下こゆる
文：ロザリオ会　山本紀志子）

2020年12月度教会委員会議事録

日　時：12月６日（日）13：00 ～ 15：30
場　所：教会ホール
議事内容（議事進行：太田委員長）
１　主な審議確認検討事案　※順不同
⑴今後の主日ミサについて
・ミサ参加上限人数確認
→現行どおり（60人以内にとどめる）。
・主日ミサに参加できる人の範囲の再確認
→現行どおり。
・グループの変更希望者の対応→お受けする。
⑵年末・年始のミサについて
・直近の感染拡大報道を受け横浜雙葉学園講堂で行うかどうかを決める。
→聖堂に場所を変更して実施（定員60人＋奉仕者）。
→12/24日本語ミサ19：00、英語ミサ21：00、いずれも配信あり（説教の字幕なし）。
→ふだん参加していない人を優先（A、Bグループに属していない人）、キャンセル者分は補充。
→12/25英語ミサ９：30、日本語11：30（配信あり、説教の字幕なし）。
→１／１予定どおり（配信あり）。
→１／２（土）夜ミサはオルガニスト不在のためオルガン伴奏なし。
⑶信徒大会2021について
→集会形式は中止。
→開催義務の規約規定はないが、資料配付は必要と思われるので、資料を作成し、配付する。
→信徒からの意見書用紙を資料に同封し募集する。
⑷共同回心式について（鈴木師）

→昨年までは待降節中に実施していたが、今年度は日程の都合上、待降節中には実施せず、四旬節中に行うこととする。
⑸新成人の祝福について
→１月10日（日）11：30ミサ直後の配信終了後に、本人＋1人程度で記念撮影、２人以上の場合はミサ後に参加も可能。
⑹2021年餅つき大会→中止
⑺教会ホールワックスがけについて
→12/20（日）13：30実施予定。
→案内係（ヨゼフ会）＋香部屋係で10人前後必要。
→台所掃除はロザリオ会で別途担当。
⑻検温計不具合について
→検温方法に工夫は必要、近日中に新規で２本購入。
⑼事務所から
・降誕祭ミサについて
→消毒液レンタルなし、看板なし。
→カトリック新聞クリスマス特集号200部購入配布。
→聖書週間献金：日本聖書協会へ献金。
・年末年始業務→12/29～１/５事務所休み、ただし、主日は時間短縮の上、開所予定。

２　活動予定および報告事項

⑴情報システム委員会から（連絡網整備と動画配信）
・一斉配信済み（11/25実施）。
・登録済みメールアドレス700件のうちエラー70件、１割程度未達（迷惑メール振り分け、携帯電話の場合はPCアドレス拒否などの理由か）。
・空メール方式での登録にする方法も継続検討。
・信徒専用ページとの連動も継続検討。
・Youtubeチャンネル登録者数は1028人、5089回再生回数（28日間）。
⑵オルガンコンサート実施報告
・販売期間は１ヶ月。
・２日間でチケット72枚販売、131,000円を寄付済み。
・ゆったり座れた、オルガンの音もよかったとの感想あり。
・再び実施できたらと思っている。
⑶ゆうちょ銀行口座開設手続き（財務委員会）
・教会に来られない人向けに月定献金用の口座開設手続き中。
・現在、各銀行では新規口座開設について厳しい審査が実施されており、本件も難航している。
・引き続き対応資料を作成し、必要に応じて司教館とも相談しつつ別の金融機関での開設も調査検討予定。
⑷入門式について
・12/19（土）17時ミサで11人（木下クラス）＋６人（元橋クラス）＋２人（担当者）で実施予定。
・入門式を経て「求道者」となる（教会法）。
・教会共同体に求道者を紹介するのが目的。
・当該席は前方に配置し、事務所でリスト作成。
⑸福祉委員会から
・フードバンク（上野町教会）へ12/１に段ボール２箱提出済み。
・いったん締め切り、今後も継続活動を検討。
⑹教会学校から
・洗礼・初聖体ミサ終了：11月21日（土）
・洗礼・初聖体は５人、初聖体は８人。
・会衆は81人。
・12月第２週で２学期終了、1/17から３グループに分けて全校再開。
⑺2021年委員会人事について
・太田委員長および副委員長（木下、小倉両氏）は留任。
・ロザリオ会会長の山本紀志子氏は留任。
・ヨゼフ会会長の岡崎芳浩氏は留任。
・総務グループは宮氏が教会委員会担当。

３　主任司祭から

・木曜パトロールでは、引き続き冬用下着と毛布を緊急募集中。ご協力をお願いします。
・司教訪問日程決定：５/23（日）聖霊降臨の主日（堅信式）、８/15（日）聖母被昇天。

４　ダリル・ディニョ師から

先だってのフィリピンにおける台風被害への義援金募集に際しては、たくさんの方にご協力をいただき、ありがとうございました。聖ヴィンセンシオ宣教会では深刻な被害を受けた４つの州に対して救援活動を行っています。司祭、シスター、神学校をはじめ多くのボランティアがこの救援活動を手伝っています。

この度は、山手教会共同体全体が呼びかけに応じてくださり262,579円を寄せてくださいました。台風の被害にあった家族にとっては大きな助けになります。重ねてお礼を申しあげます。ありがとうございました。

５　次回教会委員会

１月10日（日）13時30分から15時終了予定。

（総務グループ　田中麻子）

2021年１月・２月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

日付グループ	主日	聖歌					聖歌隊	時間	奉仕者				
		ミサ曲	入祭	奉納	聖体拝領	閉祭			オルガン	先唱	聖書朗読		詩編朗唱
								前日pm5：00	村松	山本(康)	遠藤(優)	志村	
								11：30	手塚	藤原(ま)	吉野	龍野	

【2021年１月10日決定】

政府より緊急事態宣言が発出されたため、１/16（土）から宣言解除までミサに一般信徒の参加はできません。

詳細は、ホームページまたは各会連絡網などでお知らせします。

・一般信徒が参加できるミサ開始については、改めてお知らせします。
・各奉仕の依頼は、個別に担当者からご連絡します。

（注）・当分の間、ミサ中の聖歌は歌われません
・子どもとともにささげるミサもありません。（ただし、子ども向けの説教がある場合があります）

編集後記

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が１都３県に発出されたことを受けて、山手教会では現在行われているミサをすべて会衆不参加といたします。期間は１月16日（土）から宣言解除までと予定していますが、再開の際には追ってお知らせします。

信徒の皆様の命を守ることを優先し、また命がけで働く医療従事者の負担を少しでも軽減するためにとの思いで決断いたしました。教会内の活動も同様に中止し、聖堂は閉鎖します。近隣の教会でミサを継続する教会もありますが、どうか他の教会のミサに参加されることはおやめください。すべての信徒に対するミサ出席義務は免除されています。信徒の皆さまは、どうぞご自宅でお祈りください。日曜日９時半（英語）、11時半（日本語）のミサについては、今までどおりライブ配信を行います。　（教会委員会）

今年も、より良い山手教会報作成のため以下７人で努力いたしますので、皆様のご支援をよろしくお願いします。海老名潤、太田康子、木下こゆる、竹之内弘美、田中麻子、中島晶子、土方芳人。

（土方芳人）

☆表紙のカット（山手教会）は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。